

家庭学習の手引き

いわでのこ

家庭教育はすべての教育の出発点

『一日最低5分は子供と向き合い話しましょう!』



岩出市イメージキャラクター「そうへいちゃん」

岩 出 市 教 育 委 員 会

保護者の皆様へ



1 『いわでのこ』について

—家庭学習で「学ぶ力」を育てましょう—

小中学校での学習は、子供たちが将来社会人として自立するための基礎となる「学ぶ力」を育てます。学校は、子供たちの学力を高めるために様々な努力をしていますが、家庭学習を通じて家庭との連携を図ることでその成果を何倍にも高めることができます。

「学ぶ力」とは、「もっと調べてみたい」「もし…だと、どうなるのだろう」「なぜ…なのだろう」等と、自分で意欲や疑問をもちながら、知識を生かし、見通しを持って考える力のことを言います。家庭学習を毎日続けることで、しっかりした考え方や集中力だけでなく、学習習慣が身につく、困難なことに出会ってもくじけずに積極的に挑戦しようとする力が培われます。家庭学習の定着は、子供の主体性や自律性を伸ばし、目標をもって人生を豊かに生きる力となって将来への大きな財産となります。

家庭学習充実のために、この冊子を保存し、有効に御活用いただければと思います。

2 家庭学習の習慣を身につけるためには

(1) 家庭学習を進めるポイント

- ①いつするのか、どこですのかを決め、継続させてください。
- ②宿題や提出しなければならない課題は、必ず家庭で行わせてください。
- ③テレビ等の視聴、ゲームやスマホ等の使用はルールを決めてください。
- ④準備物の確認を必要に応じてお願いします。
- ⑤子供の頑張りを認め、ほめて励ましてあげてください。

(2) 家庭学習時間の目安

10分以上 × 学年

(例えば6年生なら $10 \times 6 = 60$ 分以上)

※1 中学校 1年生は70分以上 2年生は80分以上 3年生は90分以上

※2 これはあくまでも目安です。休日や長期の休み等では、1日に勉強する回数を2回にするなど工夫してください。

3 子供の学びの意欲を高めるための家庭でのひと工夫

①できる範囲で新聞を読ませてください。

②新聞やニュース等の話題を子供と話し合ってみてください。

③辞書、地図等を身近なところに置いて、子供の好奇心を引き出し、視野を広げてあげてください。

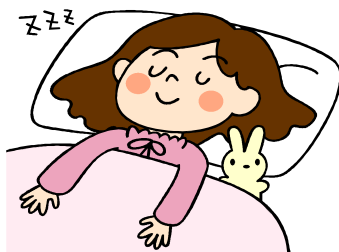
④自然や生き物にふれ合わせ、子供と一緒に観察してみてください。

⑤あいさつや社会のルール、マナーを子供が身につけられるよう手本を示してください。



小学校に入学するまで ー自信の芽を育てようー

基本的生活習慣を大切に



- 早寝・早起き・朝ごはん
- 自分のことは自分でしましょう
- きちんとあいさつをしましょう
- ルールを守りましょう



家族の役割

- 根気よく最後までそばに寄り添い、ほめてあげましょう
- 自然体で読み聞かせをするなど、絵本に親しませましょう
- 和式・洋式トイレ両方の経験をさせてあげてください
- 自分の名前はひらがなで書けるようにしてあげましょう

無条件に愛して...

子供の人権を

尊重しましょう



小学校1・2年生 —基本的な学習習慣を身につける—

「早寝・早起き・朝ごはん」「朝の排便」など、基本的な生活習慣を身につけることが学習習慣の定着には欠かせません。家族の協力を得ながら、学校で学んだことを復習する習慣を身につけていく期間です。

できたこと・できるようになったことをほめ、認めていくことで子供たちの学習に対する興味や関心を引き出し、意欲を高めていくことができます。

学習時間のめやす

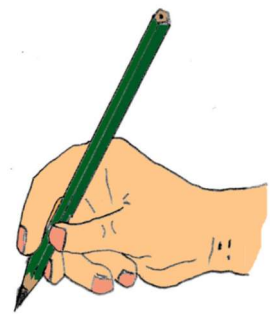
小学校1年生 **10分以上**

小学校2年生 **20分以上**

【学習の特徴】

○45分を1時間とした授業の中で、「読み・書き・計算」などの基礎的・基本的な内容を学習します。繰り返し学習することで学力が身につきます。

○「正しい姿勢で座る」「鉛筆を正しく持つ」「明日の授業の準備をする」「身の回りの整理整頓をする」ことが、学習の基本になります。

子どものかつどう かていでのがくしゅうないよう・ほうほう	保護者の役割 家庭のていねいな支え
こくご ○きょうかしよをたのしみながら、大きなこえではっきりとよむようにしよう ○「、」や「。」にきをつけて、すらすらよめるようにれんしゅうしよう ○おうちの人によみきかせをしてもらって、本をたのしむしゅうかんをつけよう ○かきじゅんや文字のかたちに気をつけてていねいにかこう ○正しいしせいで、ていねいにゆっくりかこう さんすう ○けいさんはこえを出してするなど、ゆっくりとせいかくにしよう ○ただしくけいさんができるようになったら、すこしずつはやくできるようにれんしゅうしよう ○まちがったもんだいはかならずみなおし、もういちどやってみよう せいかつ・おんがく・ずこう・たいいく ○しぜんのなかで、とりや虫のこえ、川のながれやかぜの音などにふれ、かぞくのこころのふれあいとぬくもりをたいけんしてみよう ○ゆびづかいにちゅういしながら、けんぱんハーモニカのれんしゅうをしよう ○あそんでいるようすをえにしたり、みじかなざいりょうでモノづくりをたのしもう	○学習を始める前にテレビ等は消しましょう ○学校からの連絡やお便り、明日の授業などを<u>子供と一緒に確かめること</u>を大切にしましょう ○まずは毎日、宿題を<u>最後まで取り組ませましょう</u> ○一緒に買い物したり、時計を読んだりしながら<u>子供の生活経験を増やしましょう</u> <u>良いところを見つけ、</u> <u>本気でほめてあげましょう</u>  「えんぴつ」を正しく持てないと、姿勢が悪くなります

小学校3・4年生 ー自主的な学習習慣を身につけるー

自立心が芽生えてくるとともに、自分でやろうとすることが多くなり、「やる気」や「根気」が育つ時期です。語彙の獲得能力が高くなり、抽象的な思考ができるようになります。

「勉強が難しくなった」という戸惑いや、苦手意識を持つ子供も出てきます。自信を持たせたり、意欲を膨らませたりするよう声かけや励ましが大切です。

学習時間のめやす

小学校3年生 **30分以上**

小学校4年生 **40分以上**

【学習の特徴】

- 総合的な学習の時間や外国語活動、社会、理科の学習が始まり、学習する内容も広がります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳等の使い方を学び、自分で調べる学習をすることが多くなり、自学自習の基礎を学びます。
- 算数では、四則演算(＋、－、×、÷)の基礎・基本を徹底して学ぶとともに、分数や小数など、抽象的な内容も学ぶようになります。

子供の活動 家庭での学習内容・方法	保護者の役割 家庭のていねいな支え
国語 ○教科書を毎日音読しよう ○句読点(「、」や「。」)に気をつけて、文章を正確に読むようにしよう ○正しい書き順で、正確に文字を書くようにしよう ○とめ、はね、はらいに気をつけて、丁寧に繰り返し練習しよう ○国語辞典や漢字辞典の使い方に慣れるようにしよう ○ローマ字の読み書きに取り組んでみよう ○いろいろな種類の本を読んでみよう	○家庭での <u>温かい励ましの言葉</u> で、子供たちのやる気を引き出しましょう ○宿題や持ち物点検等は、少しずつ自分で取り組めるよう支援しつつ、見守りましょう ○自分から机に向かう姿勢を育て、 <u>集中して学習に取り組む習慣</u> をつけさせることが重要です ○学習に取り組む前に、学習する場所の整理整頓をし、自分で今日の宿題を確認させ、 <u>必ず最後まで取り組ませましょう</u> ○学校からのお便りなどを保護者に手渡す習慣を身につけさせましょう ○社会や理科で学習する地域の文化や産業、 <u>自然などにふれる体験</u> をさせましょう
算数 ○かけ算やわり算などは、毎日練習するようにしよう ○三角定規や分度器、コンパスなどが正確に操作できるよう繰り返し練習しよう	
社会・理科・音楽・図工・体育 ○音楽で習った曲(リコーダー等)の練習にも取り組むようにしよう ○社会や理科で学習する地域の文化や産業、自然にふれる体験をしよう ○学校で学習した英語を話す練習をしよう	<u>良いところを見つけ、</u> <u>本気でほめてあげましょう</u>

小学校5・6年生 一自学自習の習慣を身につける一

中学校への進学を踏まえて、自ら課題を設定し、解決していく力が必要となります。また、計画的に学習を進められるようになることも重要です。

学習に対する意欲や興味・関心を高めるために、家族や先生等、周りを取り巻く大人たちの言葉がけがとても大切になります。子供たちが目標を決めて努力できるよう、温かく見守りながら励ましていきましょう。

学習時間のめやす

小学校5年生 **50分以上**

小学校6年生 **60分以上**

【学習の特徴】

- 学習内容が増え、論理的で抽象的な学習内容が増えます。
- 筋道を立てて考える力や、広い視野で物事を見る力が必要になります。
- 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを体験することで、多様なものの見方や考え方を身につけることができます。

子供の活動 家庭での学習内容・方法	保護者の役割 家庭のていねいな支え
国語 ○情景を思いうかべながら、気持ちを込めて読むなど、自分なりのめあてを決めて練習しよう ○詩やはい句などのろう読や暗唱に取り組むようにしよう ○習った漢字を使って、短文づくりにも挑戦しよう ○国語辞典や漢字辞典を手元に置き、積極的に活用しよう ○いろいろな種類の本を読み、感想を書いてみよう 算数 ○よくまちがえる計算は繰り返し練習するようにしよう ○答えの確かめは自分でするようにしよう 社会・理科・音楽・図工・家庭・体育 ○学校での学習内容をくり返し復習するようにしよう また、苦手な内容にも積極的に取り組むようにしよう ○日記や感想文など、文章を書く練習をしよう ○理科の星座観察、社会科の生産物調べなど興味関心のある内容については、自主的に調べてみよう	○学習する場所を決め、整理整頓し <u>計画を立てて学習を進められるように</u> しましょう ○家庭学習に <u>取り組んだ時間を記録させていくことがとても大切です</u> 取り組みを目に見える形で残し、自信と意欲の向上にもつなげましょう ○ <u>家族の一員として、お手伝いや役割を決め、家庭科などで学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりすることができるよう</u> にしましょう <u>良いところを見つけ、</u> <u>本気でほめてあげましょう</u>

中学校1・2年生 一自分に合った学び方を身につけ、実践する一

自主的に家庭学習に取り組める子供と、そうでない子供との差が広がり、学力差も大きくなります。苦手な教科をつくらないうちに、日々の予習・復習がとて大切になってきます。

時間をうまく活用して、計画的に家庭学習に取り組めるように、「自分に合った学習方法」を身につけましょう。

学習時間のめやす

中学校1年生 **70分以上**

中学校2年生 **80分以上**

【学習の特徴】

- 学習内容が多様になり自ら課題を見つけ解決する力が必要になります。
- 筋道を立てて考える力、多面的に物事を見る力がさらに必要になります。
- 新しく学習したことを覚えるだけでなく、生活に関連づけて自分の考えを表現することが必要になります。
- 自分の特性を理解できるようになるとともに、得意な教科を伸ばし、苦手な教科を克服することがますます必要になります。

子供の活動 家庭での学習内容・方法	保護者の役割 家庭のていねいな支え
国語・英語 ○教科書の本文、物語、詩、俳句、漢文、英文を声を出して読む習慣をつけよう ○ドリル等を活用して繰り返し学習しよう ○英語の基本文型や単語を正確に覚えよう 数 学 ○学校で学習したことは、その日のうちに学習内容を復習し、理解するようにしよう ○問題集などを活用し類題に取り組もう 社会・理科 ○要点をノートにまとめてみよう ○新聞やテレビなどで報道されている時事問題などについて家族で話し合おう 音楽・美術・家庭・技術・保健体育 ○音楽鑑賞をしたり、美術館や博物館等を訪れたりして、芸術にふれる機会を積極的にもとう ○家族の一員として、積極的に家事等に関わろう ○身の回りの風景や、空想を絵にしたり、工作などの作品を作ってみよう ○継続して運動にチャレンジしよう	○テストの結果だけに目を向けるのではなく、日々の学習に取り組んでいる様子もしっかり見て、 <u>ほめたり、励ましたりすることを大切にしましょう</u> ○新聞やニュース、読んだ本について家族で意見交換をし、感想をまとめることに継続的に取り組ませ表現力の向上につなげましょう ○ <u>集中して取り組める環境づくり</u> のために家族で協力していきましょう <u>良いところを見つけ、</u> <u>本気でほめ続けてあげましょう</u>

中学校3年生 一将来の夢や希望の実現のために一

進学などの進路決定を控え、「やらなくては」と分かっている、思うようにならない自分にいらだつなど、気持ちが不安定になりやすい時期です。実力テスト等の結果に一喜一憂し、優越感と劣等感の間で揺れやすく、反抗的な言動や態度を取りがちです。

進路の目標を具体的に決めて、目標に向けて何が不足しているのか、何が必要なのか、努力すべき点を明確にして学習計画を立てることが大切です。そのためにも、家族でしっかり話し合ひましょう。

学習時間のめやす

中学校3年生

90分以上

【学習の特徴】

○3年生の学習に加えて、1・2年生の内容の復習も必要となるので、家庭で計画を立てて学習することがこれまで以上に重要になります。

○将来を見据えた目標を持つことが大切になります。学校では、その目標に向けた進路を選択するための進路相談なども行われます。

子供の活動 家庭での学習内容・方法	保護者の役割 家庭のていねいな支え
○定期テストや復習テストの予定に沿って、十分な対策ができるように準備をしよう ○学習計画を立て、その実施状況を点検しよう ○将来の夢や希望を実現できるよう、進路について家族としっかり話し合う場をもとう ○部活動引退の意義をしっかり認識し、生活リズムを整え、学習に取り組もう ○適度な運動を心がけ、ストレスを発散して、楽しみながら学習できる心の余裕をもとう ○理解ができているところとそうでないところを見つけ、教科書で学びなおしをしよう ○国語の漢字、英語の単語、数学の基本事項などは確実に身につけよう ○社会科や理科なども、要点をまとめ確実に身につけよう	○家族の支えがとても大切になる時期です。食事のときなど、<u>会話の時間をできるだけつくり</u>、いろいろなことを話すようにしましょう ○<u>希望の進路に沿った計画を立てさせ、夢の実現を応援しましょう</u> ○三度の食事を大切に、十分な栄養と睡眠時間に気をつけさせ、<u>体調管理</u>をしっかりとさせましょう ○<u>スマホ等の利用については家庭でルールを決め、時間の使い方を考えさせましょう</u> ○落ち着いて学習できる環境づくりに努めましょう <u>良いところを見つけ、</u> <u>本気でほめ続けてあげましょう</u>

家庭学習の習慣を身に付けるための生活チェック表！

(はい○ もう少し△ いいえ×)

	チェックする項目	チェック欄		
		/	/	/
子どもが チェック	① 早寝・早起きをしている。			
	② 毎日、朝ごはんをしっかりと食べている。			
	③ だれに対しても気持ちのよいあいさつを心掛けている。			
	④ 家庭学習に取り組んでいる。 [小]「10分×「学年」以上学習している。 [中]1年生は70分以上、2年生は80分以上、 3年生は90分以上学習している。			
	⑤ 学校で習ったことを復習している。			
	⑥ 丁寧な字で書いている。			
	⑦ 分からないことをそのままにせず、聞いたり、調べたりしている。			
	⑧ 見直しや答え合わせ、まちがい直しなど、学習の振り返りを行っている。			
	⑨ [小]同じ教科だけでなく、いろいろな教科の学習をしている。 [中]自分で必要な学習内容を考え、計画的に学習をしている。			
	⑩ 学習が終わったら、片付けをしている。			
	⑪ 本や新聞を読むようにしている。			
保護者が チェック	⑫ 規則正しい生活リズムで過ごせるよう協力している。			
	⑬ 子どもの心と健康状態を把握している(悩み、体調不良等)			
	⑭ 子どものがんばりを認め、失敗した時は励ましている。			
	⑮ 子どもが宿題や家庭学習ができる環境を整えようとしている。			
	⑯ 子どもが学習で分からない時、一緒に問題を解こうとしている。			
	⑰ 子どもがいつまでも、テレビ・ゲーム・インターネット・携帯電話・スマートフォンなどしていないか意識している。			
	⑱ 学校や将来の夢、進路等について話題にして会話している。			

家庭学習について困ったときは？

○ 先生と話しましょう

家庭学習については、困ったことや分からないことがあるときには、まず先生に相談してみましょう。お子さんにあった学習内容や学習方法、取り組みについて、家庭と学校とが一緒に考え、協力しながら、自分で進んで学ぶ力をともに育てます。

○ 図書館を利用しましょう

家庭学習で調べたい、興味があつた時は、図書館に出かけてみましょう。自分で調べることで、自ら発見した「知識」と「学び」を結びつけることができ、探求学習にもつながります。さらに読書により、学習の基礎である読解力や思考力の向上も期待できます。

家庭で確認 子どもの安全

子どもの安全を脅かす事件が多発しています。大切なお子様を守るため、各家庭で今一度、「我が家の安全ルール」を話し合ってください。

(以下の項目ができていれば☑を入れます)

1 登下校時のルールは？

- ☐できるだけ複数で登下校している
- ☐寄り道（みちくさ）をしていない
- ☐寂しい道や、人目につかない場所などの確認をしている
- ☐「きしゅう君」や「こども110番」の家などを確認している



2 遊びに行く時のルールは？

- ☐一人きりで遊ばないようにしている
- ☐「どこで」「だれと」遊び、「何時に帰る」などの確認をしている
- ☐危険な場所や遊びをしていないことを確認している



3 一人で家に居るときのルールは？

- ☐玄関ドアの施錠は勿論、チェーンがあれば必ずしている
- ☐知らない人が来たら、玄関ドアは絶対開けない
- ☐家族で留守中の電話対応の仕方を決めている

不審者に出会ったら 「イカのおすしー人前」

イカ	イカない	知らない人には絶対についてイカない
の	のらない	知らない人の車に乗らない
お	おお声で	大声を出して周りに知らせる
す	すぐに逃げる	直ぐにその場から離れて逃げる
し	しらせる	事の次第をお家の人に話す
一人	一人で遊ばない	

(出かける) **前**に「誰と」「どこへ」行くのかお家の人に知らせる



きのくにコミュニティスクールの推進

子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は、複雑かつ多様化しており学校と地域の連携・協働が重要とされています。

具体的には、学力、いじめ、不登校等の教育課題だけでなく、家庭の教育力の低下、地域でのつながりの希薄化などの課題があります。



和歌山県では、これらの課題を解決していくため「きのくに共育コミュニティ」を基盤として、学校と地域が一体となり、役割を分担しながら共通の目標に向けて取り組む「きのくにコミュニティスクール」を推進しています。

本市でも、すべての小中学校に学校運営協議会を設置し、「地域とともにある学校」として地域との連携を深めています。学校と保護者、地域の方々が目標を共有し、子供たちを育んでいくことは、子供の豊かな育ちを確保するとともに、それに関わる大人や地域の絆を強め、地域づくりの担い手を育てていくことにつながります。



和歌山県教育委員会作成